

## 国内マグネシウム 2024 年需要実績／2025 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

(単位：トン)

分類\年	2019	2020	2021	2022	2023	2024 実績	24/23 比	2025 予測	25/24 比 予測
ダイカスト	5,100	4,700	5,200	4,900	4,400	4,600	104.5%	4,600	100.0%
鋳物	190	100	100	100	90	90	100.0%	100	111.1%
射出成形	1,200	960	1,000	1,000	1,100	1,100	100.0%	1,200	109.1%
展伸材	800	700	800	700	700	900	128.6%	1,000	111.1%
その他合金	300	200	200	100	100	100	100.0%	100	100.0%
構造材小計	7,590	6,660	7,300	6,800	6,390	6,790	106.3%	7,000	103.1%
アルミ合金添加	17,000	14,500	16,500	15,000	14,500	14,500	100.0%	14,500	100.0%
鉄鋼脱硫	4,140	3,000	3,500	3,400	3,080	3,400	110.4%	3,400	100.0%
ノジュラー鋳鉄	2,700	2,520	2,500	2,600	2,300	1,950	84.8%	1,950	100.0%
チタン製錬	1,010	1,000	440	725	1,200	900	75.0%	1,000	111.1%
化学・触媒	1,500	1,350	1,300	1,500	1,400	1,500	107.1%	1,600	106.7%
添加材小計	26,350	22,370	24,240	23,225	22,480	22,250	99.0%	22,450	100.9%
防食その他	925	1,000	1,230	1,150	800	800	100.0%	800	100.0%
内需小計	34,865	30,030	32,770	31,175	29,670	29,840	100.6%	30,250	101.4%
輸出	225	102	140	490	333	290	87.1%	350	120.7%
総需要	35,090	30,132	32,910	31,665	30,003	30,130	100.4%	30,600	101.6%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

## &lt;2024 年の需要実績&gt;

- ①2024 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 6.3%増の 6,790 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 1.0%減の 22,250 トン、防食その他向けが同増減なしの 800 トン、輸出が同 12.9%減の 290 トンとなり、全体では 30,130 トンで同 0.4%の微増となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要は、原料価格高騰、主要な自動車分野の回復の遅れ等により続いていた需要減少が止まり、ダイカスト部門が前年比 4.5%増の 4,600 トン、展伸材部門が同 28.6%の 900 トン、鋳物部門、射出成形部門、その他合金が同増減なしの 90 トン、1,100 トン、100 トンとなった。  
全体的に新規の案件は増えていないが、展伸材部門は、以前から続くレース用ホイールなど鍛造品の安定的な需要により増加で推移した。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けは、主要なアルミ合金添加部門がリサイクル推進の動きもあり前年比増減なしの 14,500 トン、自動車分野での需要減によりノジュラー鋳鉄部門は同 15.2%減の 1,950 トン、前年の需要増から使用が落ち着いたチタン製錬部門は同 25.0%減の 900 トンとなった。粉粒を用いる部門は中国品の価格安定もあり、鉄鋼脱硫部門が同 10.4%増の 3,400 トン、化学・触媒部門が同 7.1%増の 1,500 トンと 2022 年の水準に回復する推移となった。
- ④防食その他は、防食向け、その他の特殊な用途向けとも前年並みに推移し、前年比増減なしの 800 トンとなった。
- ⑤輸出は、財務省貿易統計の純マグネシウム地金とマグネシウム合金地金の合計より算出している。

## &lt;2025 年の需要予測&gt;

- ①構造材向けは、鋳物が主に航空機分野、射出成形品と展伸材の鍛造品が主に自動車分野で使用が増えると考えられ、鋳物部門が前年比 11.1%増の 100 トン、射出成形部門が同 9.1%増の 1,200 トン、展伸材部門が同 11.1%増の 1,000 トンと増加、ダイカスト部門とその他合金は横ばいでの推移で、合計では同 3.1%増の 7,000 トンと予測した。
- ②添加材向けは、アルミニウムのリサイクル推進などもあり、各分野で大きな需要増加を見込むことが難しく、アルミ合金添加部門、鉄鋼脱硫部門、ノジュラー鋳鉄部門は横ばいでの推移、チタン製錬部門、化学・触媒部門はそれぞれ 100 トンの増で 1,000 トン、1,600 トンとなり、合計は 0.9%微増の 22,450 トンと予測した。
- ③2025 年の国内マグネシウム総需要量は、まだまだ厳しい推移が続くと見られ、若干の回復となる前年比 1.6%増の 30,600 トンと予測した。

以上